

今回の素材

「エアボッツ」+「ロボッP」

今回で連載 16 回目となるリバ道です。

過去 15 回を振り返ってみると、

第 3 回 (No.46) 空飛ぶドラえもん

第 6 回 (No.49) エアロソアラ

第 7 回 (No.50) ハニー・ビー

第 9 回 (No.52)

エアロソアラバードウィング /

オートフライト

第 11 回 (No.54) メカトンポ

と、15 回中 5 回が“飛びモノ”となっている中でバランスが気になっていますが、今回も“飛びモノ”を取り上げることにしてみました。

一言で“飛びモノ”と言っても、その飛行システムは大きく分けて

① 飛行機系

② ヘリコプター系

③ 特殊系

の 3 つに分類されます。①の飛行機系は、エアロソアラのように、翼に受ける空気力で揚力を発生させて滞空する飛行装置で、進み続けなければ揚力を維持できないため狭い場所での操縦が難しいのが欠点です。②のヘリコプター系は、ハニー・ビーや空飛ぶドラえもんのように、翼自体が回転することで揚力を発生させ、ホバリング可能です。そのため、狭い場所での操縦に基本的に適しています。ただし、微妙なバランスで簡単に姿勢が崩れるため、操縦は必ずしも簡単ではありません。③の特殊系は、メカトンポの用の①、②とは異なる飛行原理(はばたき以外のものは無いかも?)による飛行機械です。

今回は、この 3 つの分類のうちの②のヘリコプター系に属する玩具を 2 種類紹介します。前述したように、ヘリコプター系の玩具は、姿勢の安定性が非常に重要で、機体の調整や操縦にはかなりの慣れを必要とします。今回紹介する“エアボッツ”と“ロボッP”は、この姿勢の安定性をどのように確保するか?という点で面白い

工夫が見られる玩具です。

なお、今回の素材のエアボッツとロボッPは、共に Amazon.com で購入しました。購入価格は、エアボッツが 1,679 円、ロボッP が 2,300 円でした。

エアボッツ パッケージ、外観チェック

エアボッツは、2007 年の 11 月末に、世界初の空中戦ができるロボット(どこまでロボットかは疑問ですが…)として発売された玩具です。対象年齢が 15 歳以上となっていますが、パッケージ上のエアボッツで遊んでいる子供の写真はどう見ても小学生なのが気になります。さておき、空中格闘戦をするからには、空中分解など、部品が飛び散ることが容易に想像されます。対象年齢が高めに設定されている理由はこのためでしょう。セットの同梱物には目を保護するためのゴーグルが付属しています。この類の商品では、揉めるのは技術的な問題よりも、この手のリスク関係の問題のことが多いですので、担当者の苦勞が想像できます…。

空中戦機エアボッツ シュバルストーム (スターターセット)

発売元	: 株式会社ウイズ
生産国	: 中国
希望小売価格	: 2,992 円 (税込)
本体サイズ	: 全高約 113cm
本体重量	: 約 3g
備考	: 電池 単 3 型 × 4 個 (別売り) 防護眼鏡同梱 対象年齢 15 歳以上

エアボッツは、有線での電源供給を行う飛行玩具です。有線方式は、なんだかカッコ悪いというデメリットはありますが、本体の軽量化が簡単で安く作れるというメリットがあり、また有線接続されているため暴走(操縦失敗)してもケーブル(紐)の長さの範囲でしか本体が移動しないため安心であるなどのメリットがあります。エアボッツは、空中格闘戦がその主目的ですか

ら、軽量の本体は、危険を軽減するためにもとても重要です。しかも、本体構造を究極まで単純化することで、格闘戦での機体の損傷に対して消耗部品の扱いができるように各部パーツの部品化と低価格化が図られています。

さて、実際に飛ばしてみた感想ですが、昭和中期の遊びで、トンボを捕まえて紐でつないで戦わせるという遊びがあったらしい(筆者は未経験)のですが、それを彷彿とさせました。それはさておき、エアボッツは安定に飛ばすのは想像以上に簡単で、多少加速が過ぎても、ケーブルに引っばられて飛びすぎてしまわないので安心して遊ぶことができます。しかし、調子に乗ってフルスロットルで始動させると、ケーブルが伸びきった瞬間に加速が付きすぎたためか、2 枚のローターだけが外れて飛んでいってしまいました(そして左ローターを紛失しました…)。皆さんは気をつけましょう。



写真1 エアボッツ パッケージ



写真2 エアボッツの同梱物一式